

# 学校ぐるみで 地域ボランティア活動

～幕別町・江陵高等学校～



左から 船戸幹哉さん、稲毛真理佳さん、千葉さやかさん、桐井一先生



青木 寛校長先生

全国で親しまれているゲートボールの発祥地として有名な道東・幕別町。この町にある江陵高校（幕別町依田101、青木 寛校長）は、1995年から学校ぐるみでのボランティア活動を行っています。2004年7月には、およそ10年にも及ぶ地道なボランティア活動に対し、北海道新聞社から「第28回道新ボランティア奨励賞」も贈られました。今回は、全校で行うボランティアの取り組みをご紹介します。

## 生徒会やクラブ活動を中心に 学校ぐるみでボランティア

豊かな自然が広がる環境の中にある江陵高校は、全校生徒およそ180名が学ぶ私立学校。10年前から始められた同校の全校ぐるみでのボランティア活動は、もともと20年前前からクラブ活動として行われていたものですが、年ごとに変わる部員数によって活動が安定しなかったことを受けて、学校全体で取り組む方向に変わっていき、現在に至っています。

活動の中心は、生徒会と野球部やアイスホッケー部、バスケットボール部、サッカー部などの各クラブ。内容も1年を通して多岐にわたっています。春には、通学路にあるバス停留所の清掃活動から始まり、ユニセフの募金活動や公園の清掃、夏になると通学路の清掃に加えて特別養護老人ホームで行われるお祭りのサポートがあります。秋には、例年催される子ども祭りのお手伝い。そして冬期には、独り暮らしのお年寄りの住宅や小学校の子どもたちの通学路の除雪などがあります。冬時期の除雪活動は特に地域の人びとに喜ばれ、期待されている取り組みのひとつです。

これらの恒例行事に加え、さらに今年は幕別町で身体障害者の大きな大会が開かれ、臨時の施設で障害を持った子どもたちの相手をするというボランティア活動もおこなわれました。

このボランティア活動を取りまとめている桐井一先生は、「全校で取り組みを始めた当初は、生徒が道路沿いで交通安全を呼びかけるなどの活動を行っていましたが、

徐々に取り組みの幅を広げて現在までできました。現在はボランティア活動にも慣れている3年生を中心にやっていて、冬場の除雪でも嫌がらずに積極的にやってくれています」。

## 老人施設や子ども祭り、 イベントなどに積極参加

稲毛真理佳さんと千葉さやかさんは3年間を通してボランティア活動をしてきたメンバー。特に思い出深かった行事について、稲毛さんは「老人ホームでの活動」、千葉さんは「子ども祭りのお手伝い」を挙げてもらいました。

老人ホームでの活動は、特別養護老人ホームが主催しているイベントに出かけて、介助やもの運びなどの手伝いをします。2人とも「急に大きな声を出したりするお年寄りもいて少し驚きましたが、行ったらすごく喜んでくれるので嬉しかったです」と当時を振り返って語ってくれました。江陵高校の生徒たちとのふれあいが、入所しているお年寄りたちにとっても心はずむ出来事だったのではないのでしょうか。

また、毎年行われている子ども祭りでは、露店の手伝いや子どもたちの相手を務めますが、こちらも慣れない中での活動です。「子どもたちにどういう言い方をしたらいいのか、良くないのかが分かってきました」という千葉さん。生徒たちは活動を通してさまざまなことを学んでいるようです。



老人ホームでの活動風景

その上に今年は同町で身体障害者の大会が行われました。この活動は特に生徒たちの心に残ったようです。大会当日は、身体に障害を持ったお父さんのお母さんなどが大会に出場するために、お父さんたちの相手が同校の生徒たちに任されました。桐井先生は「参加した生徒たちは、子どもたちとのふれあいを通して人に優しく思いやりを持って接する気持ちを育んでくれたと感じています。当校の生徒たちにとってもいい出会いと経験をさせてもらえたと思っています」と、生徒たちが会おう体験の大切さを語ってくれました。

## 冬場は独居老人宅や 小学校通学路の除雪作業をメインに

冬場の除雪作業は、ボランティア活動の中心的な行事です。この活動は、学校の近くの独り暮らしのお年寄りの自宅や小学校の通学路の除雪作業をするもので、おもに野球部やサッカー部などスポーツクラブを中心に行なわれています。

「例えば、ホームヘルパーがくる家が4軒ありますが、朝雪が降っていると、子どもたちに招集をかけて雪かきをします。スコップやママさんダンプなどの道具や生徒が着る専用の防寒具は徐々に生徒会費などで揃えているので、それらを着用し、道具を持ってお年寄りの家に行き、雪かきをしてサッと引き揚げます」ということですが、嬉しい悩みもあるようです。お年寄りの方々が生徒たちの来るのを、お菓子などを用意して待っていてくれるのだそうです。桐井先生は「ボランティア活動なので一切をお断りしてい



江陵高校の校舎

ますが、お年寄りの方々は子どもたちと話をしたいということもあるんです。申し訳ないのですがお心だけいただいています」とのこと。

生徒会の副会長も務めた野球部の船戸幹哉君は「お年寄りの方々に喜んでもらえるのが嬉しかったです。去年は特に雪が多く降り、出勤回数も多かったのがやりがいもありました。でもやっぱり朝は寒いです(笑)」と素直な感想を寄せてくれました。

## 地道な取り組みで 道新ボランティア奨励賞を受賞

江陵高校のボランティア活動は、今年7月に北海道新聞社が催す「ボランティア奨励賞」を受賞しました。

この賞は、道内でさまざまなボランティア活動を行っている団体に対して表彰を行うものですが、連絡を受けた同校でもびっくり。驚きと喜びの中で、船戸君、稲毛さん、千葉さんらが授賞式に出席し、活動報告なども行ってきました。

船戸君は代表で「今後進む方向が違ってても、お年寄りや身体の不自由な方がいたら、できるだけサポートしていきたい」とスピーチをし受賞の挨拶をしました。

ボランティア活動を長年にわたって指導してきた桐井先生にとっても「本当に嬉しいです。自分たちの取り組みをどこかでみて下さった方がいたんだという思いと、生徒たちの心にボランティアに対する考えが育ってくれていることも実感できました。何より生徒たちにとって、そして我々教員にとっても受賞は大きな励みになりました」。

そして国土交通省が道路清掃や除雪などのボランティア活動に対して積極的にサポートを行っている「ボランティアサポートプログラム」もこの受賞をきっかけに知ることになりました。「国土交通省がこのような取り組みをしているとは知りませんでした。もう道具類などは揃えてあるので、今後道路に花を植えたり、道具を追加補給するなどの時にはぜひ利用させていただきたいと思います」。

地域にしっかりと根ざした江陵高校の生徒たちによるボランティア活動。今後は、来年度の開設を待つばかりの「福祉コース」が新設されることで、より積極的、専門的なボランティア活動にも取り組んで行ければとのこと。同校の取り組みはさらに大きく飛躍していくことでしょう。

(了)



除雪作業ボランティアの風景